



御宇田五山のひとつとされる実西寺跡に立っている宝篋印塔三基と五輪塔三基です。いずれも無銘ですが、その形状から鎌倉時代に作られたとされます。六段の基礎は当地方特有の形で、階段式の屋根、馬耳形（隅飾）突起を持つ笠石などが特徴です。（大墨）

市指定

建造物

重盛の供養塔

しげもりのくやうとう

建
—
1

所在地

鹿本町

御宇田

地図

P.140 33



元亨二（一二三二）年以降に建立された石塔群で、県道から少し入った民家裏に立ち並んでいます。銘文には、関係者や康平寺の再興に力を尽くし、六十三歳で没した禎久法印の菩提のためにこの塔が建てられたことなどが記されています。かつての発掘調査で、土師器、瓦器片、布目瓦片、五鈎杵などが出土しました。（菊川）

市指定

建造物

霜野のだんとつさんと如法経塔

しものだんとつさんと
によほうきやうとう

建
—
2

所在地

鹿央町

霜野

地図

P.141 34

市指定

建造物

霜野の六地藏

しものろくじぞう

建—3

所在地

鹿央町
霜野

地図

P.141 35



大日堂だいにちどうの敷地の中にありました。高さ二・〇メートルの石造りです。文政九（一八二六）年に康平寺の僧快音かいいんによって再建されたものですが、龕部がんぶより上は室町期の様式を残しています。現在は霜野公民館近くに移設されています。（菊川）

市指定

建造物

姫井の六地藏

ひめいのろくじぞう

建—4

所在地

鹿央町
姫井

地図

P.141 36



高さ二・一メートルの六地藏です。全体に傷みがひどいため、刻銘きめいなどは確認できませんが、年代は、江戸期とされています。この六地藏は、東に行けば山鹿へ、西は玉名、南は熊本、東南は菊池へと続く、重要な道沿いに立っています。（飯田）

菊池則隆（のりたか）の娘、玉依姫（たまよりひめ）が、化粧田に賜った玉名へ向かう途中、姫井に宿泊しました。そこには上井（かみい）と下井（しもい）の二つの湧き水があり、姫はこの水を気に入ったそうです。それ以後、この地域は姫井と呼ばれるようになったと伝えられています。また、上女中が使った上井は「カミゴ」、下女中が使った下井は「シメゴ」と呼ばれています。シメゴは、最近まで姫井水道組合の水源として使われていました。

市指定

建造物

堂米野の六地藏

どうめののろくじぞう

建—5

所在地
鹿央町
堂米野

地図

P.141 37



灰石（阿蘇熔結凝灰岩）で作られた、高さ二・〇メートルの六地像です。「文化十五年再建」と印刻されていますが（文化十五年は、西暦一八一八年）、龕部（お地藏様が彫つてある部分）だけがそれにあつたと判断されます。（多田隈）

市指定

建造物

広の六地藏

ひろのろくじぞう

建—6

所在地
鹿央町
広

地図

P.141 38



高さ二・八メートルの六地像です。傷みも少なく、表面もよく残っていますが、残念ながら、刻銘は確認できません。江戸時代のものと考えられます。（飯田）



高さは、一・二メートルで、文政六（一八二二）年に建立されたものです。もとは、道沿いにあったのが、明治時代に県道が作られた時、移転されたものです。
（菊川）

市指定

建造物

宮前の六地藏

みやまえのろくじざう

建
—
7

所在地

鹿央町
霜野

地図

P.141 39



鎌倉時代後期、弘安六（一二八三）年に建立された宝塔（ほうとう）です。塔身には「如法経之塔」と印刻され、基礎石の正面に年号が刻まれています。高さは一五四センチ、幅は七〇センチです。
以前はお宮の西側にありましたが、お宮を拡張する際に現地へ移されました。
（事務局）

市指定

建造物

藤井八幡宮如法経塔

ふじいはちまんぐう
によほうきやうとう

建
—
8

所在地

藤井
藤井八幡宮

地図

P.141 40



法華寺観音堂の右側に、多くの石が積み重ねられており、その石壇上に四基の石塔々身が立てられています。これらの塔身に建保三（一二二五）年と建保四年の銘及び梵字、模様が彫りこまれているものがあります。年代の分かる塔身では、山鹿市内最古級のものです。

（橋本）

市指定

建造物

法華寺の石塔々身群

ほつけじのせきとうとうしんぐん建—9

所在地

寺島
法花寺

地図

P.139 41



瑞雲山有福寺跡にあります。鎌倉時代の作で、承久三（一二二二）年、泉本荘（旧稲田村）の地頭となつた高橋氏の祖、相良左近将監頼元とその一族の五輪卒塔婆と言われています。

（宮崎）

市指定

建造物

有福寺跡五輪塔

ゆうふくじあとごりんのとう

建—10

所在地

鹿本町
上高橋

地図

P.140 42



高さ七〇センチで、石作りの塔です。天文七（一五三八）年に建てられたもので、鹿北町で年号がわかるものの中で、最も古い追善供養の墓碑です。もともと、水田にあったものが、現在の場所に移転されました。（石本）

市指定

建造物

福原の角卒塔婆

ふくばるのかくそとうば

建—11

所在地

鹿北町
岩野 福原

地図

P.139 43



通称「だんと（壇徒）さん」といわれます。小高い丘の上に、宝篋印塔一六基、五輪塔等が多数存在します。東願寺の墓地と言われており、鹿北地区最大の古塔群です。（高巢）

市指定

建造物

東野のだんとさん塔石群

あずまののだんとさんとうせきぐん

建—12

所在地

鹿北町
四丁 東野

地図

P.139 44

市指定

建造物

須屋の宝篋印塔

すやのほうきよういんとう

建
—
13

所在地

鹿北町
維持 須屋

地図

P.138 (45)



文化年間ごろ疫病の大流行があり、それをこの周辺にある墓の崇りであろうと思い、村民が墓石などを集め、その上に観音を祀って供養したと伝えられています。
(中満)

市指定

建造物

宮迫の板碑

みやざこのいたび

建
—
14

所在地

鹿北町
岩野 宮迫

地図

P.139 (46)



仏教が盛んな室町時代頃、先祖を供養するために作られています。板碑正面には、梵字が刻まれています。四月三日には、関係の家で供養祭が行われています。
(石本)



岩野尾谷（久老）の小さい丘の上に、石造りの五輪塔が三基並んでいます。移動されていて並べ方はどうだったのかはつきりしません。近くに天文三（一五三四）年頃のお墓があります。（石本）

市指定

建造物

七浦の五輪塔

ななうらのごりんどう

建
—
15

所在地

鹿北町
岩野 七浦

地図

P.139 47

市指定

建造物

慶春待ちの碑

けいしゅんまちのひ

建
—
16

所在地

鹿北町
芋生 川原谷

地図

P.139 48



安土桃山時代、加藤清正が朝鮮出兵から引き揚げる際、紙漉師を伴い帰り、この地で紙漉きの業を始めさせました。紙漉師慶春の一行は、鹿北町芋生に移住し、その後紙漉技術を伝え、この地域の主産業にまで発展させました。

この碑は、慶春たちを村人らが待ち受けた記念として建てたものです。

（古賀）

市指定

建造物

慶春の碑

けいしゅんのひ

建
—
17

所在地

鹿北町

芋生川原谷

地図

P.139 49



慶春の墓と言いつたえられ、三郎塚とも呼ばれていま
す。もとは細永集落の竹林の中にあつたのですが、平
成十年、慶春公園を造つた際、移築しました。
慶春公園は、彼の偉業が永久に伝わることを願ひ
て設営されました。

(古賀)

市指定

建造物

鏡観坊の宝篋印塔

きようかんぼうのほうきよういんとう

建
—
18

所在地

鹿北町

岩野女田

地図

P.139 50



鎌倉時代作とされるお墓で、鏡観坊の山伏がここで
病に倒れ、生き埋めにされ亡くなったことを供養して
建てられたと伝えられています。宝篋印塔としては鹿
北で最大のものです。耳の病氣にお参りすると病氣が
治ると言われていて、遠くからのお参りもあります。
お堂の右には享保十四（一七二九）年の山伏石像もあ
ります。

(石本)



明和六（一七六
九）年に作られた
高さ二六〇センチの
石造りの六地藏
です。六面には、
人々の迷いを救う
菩薩、地藏菩薩が
刻まれていて、そ
れぞれ持ち物が違
っています。イボ
や歯痛の神として
のお参りがありま
す。
（石本）

市指定

建造物

下中の六地藏

しもなかのろくじぞう

建
—
19

所在地

鹿北町
岩野 下中

地図

P.139 51



芋生迫の民家裏
に、宝篋印塔、五
輪塔が五基置かれ
ています。台石の
中央に梵字、その
右に口浄通禪定門、
左側に文明十六
（二四八四）年の銘
が刻まれています。
鹿北町の年号の確
認される墓碑では、
最も古いものです。
（高巢）

市指定

建造物

迫浦の宝篋印塔

さくららのほうきよういんとう

建
—
20

所在地

鹿北町
芋生 迫浦

地図

P.139 52

市指定

建造物

法泉寺の地藏尊

ほうせんじのじざうそん

建—21

所在地

鹿北町

椎持 下村

地図

P.138 53



高さ一五〇センチ、三五センチ角の石造りの地藏尊です。山潮（土石流）で法泉寺が流され、今の下村に留っていたのを、村人が起こし建てたといわれています。表面の上部に地藏像、その下に奉建立地藏菩薩尊像、側面及び裏面には多数の僧名が刻まれています。銘文から文明十四（一四八二）年に作られたことがわかります。

（中満）



市指定

建造物

田中橋

たなかばし

建—22

所在地

鹿北町

多久 田中

地図

P.138 54

鹿北地区最古の石橋で、安政五（一八五八）年に完成しました。通称車橋、別名化巖（けごん）とも呼ばれます。長さ一四・三メートル、幅三・二五メートルで二重輪石で造られた、珍しい構造です。橋上には、建設理由や関係者の名前のほか、「藤からむ巖と化せよ車橋」との句が刻まれた石碑があります。石工は、地元の藤左衛門と藤兵衛です。（古賀）



明治十四（一八八二）年、国道三号の開通に伴い、男岳川に架設されました。物流の大動脈で、九州を縦断する重要国道にふさわしく、長さ一九・七メートル、長大な眼鏡橋です。また同時に、他の石橋に見られない凝った造りの丸い欄干や橋裾の飾り石などがあり、雄大かつ優美な姿を見せています。石工は有名な橋本勘五郎（かんごろう）と言われています。（古賀）

市指定

建造物

高井川橋

たかいがわはし

建
—
23

所在地

鹿北町
岩野 高井川

地図

P.139 55



大正三（一九一四）年、福岡県立花町辺春の中村時次郎が造ったといわれる石橋です。男岳川に架けられていましたが、平成六年河川改修工事により、現在地（瞑想の森公園）に輪石のみ移築されました。長さ一一・七メートル、幅四・二メートルで、橋面は緩やかに反り、半円に近い丸みを持った優美な形状です。（古賀）

市指定

建造物

女田橋

おなだはし

建
—
24

所在地

鹿北町
岩野 西栗瀬

地図

P.139 56



多^{たく}久^く大^{やまと}和^{のかみ}守^{のり}の弟^{あに}の須^す屋^や源^{げん}五^ごの墓^{はか}であるといわ
れています。作成年代など、その他は詳しく分
かっていません。源五は、肥後国衆一揆の隈^{かい}府^ふ
城の戦いの時、戦死したとされています。(中満)

市指定

建造物

須屋の五輪塔

すやのごりんのとう

建
— 25

所在地

鹿北町

維持 須屋

地図

P.138 57



正^{しょう}和^わ五^ご(三二六
年、菊池氏十二代
武^{たけ}時^{とき}は、日輪寺を
修興し、娘を住ま
わしました。

この五輪塔は、
その娘の墓と伝え
られています。

高さ一七〇センチ
で、水輪に梵字が
刻まれています。

(橋本)

市指定

建造物

素覚尼五輪塔

そかくにごりんのとう

建
— 26

所在地

杉

日輪寺

地図

P.141 58

市指定

建造物

石体観音三十三基

せきたいかんのさんじゅうさんき
建—27

所在地

杉
日輪寺

地図

P.141 59



日輪寺本堂北側の
林の岩上に点在した
観音石像群です。聖
観音をはじめ様々な
観音菩薩像が奉納さ
れています。それぞ
れに寄進者の名があ
って、近くは山鹿の
下町、中町、遠くは
阿州(徳島)、防州(山
口)の寄進名もあり
ます。年代では、文
政十二(一八二九)
年の銘も見られま
す。
(橋本)

市指定

建造物

伝宇野親治五輪塔群

でんうのちかはるごりんのとうぐん
建—28

所在地

中
雲閑寺

地図

P.141 60



雲閑寺境内に
三つの五輪塔が
並んでいます。
大きさはほとん
ど変わらず、高
さ一六〇程度
と大型です。ど
れも銘はありま
せん。保元の乱
(一一五六年)に
敗れて山鹿へや
つて来た宇野親
治の墓と伝えら
れています。
(事務局)

市指定

建造物

方保田の板碑

かとうだのいたび

建
—
29

所在地

鍋田
博物館

地図

P.141 61



もとは方保田八幡宮北の立石^{たていし}にありましたが、その後専立寺^{せんりゅうじ}に移され、現在は山鹿市立博物館の敷地内に立っています。元亨^{げんこう}元（一二三二）年の銘があり、碑面には、阿弥陀如来^{あみだにょらい}と不動明王^{ふどうみょうおう}を表す梵字^{ぼんじ}が彫られています。

（事務局）

市指定

建造物

金剛乗寺石門

こんこうじょうじいしもん

建
—
30

所在地

山鹿
金剛乗寺

地図

P.141 62



文化元（二八〇四）年に石工甚吉が凝灰岩の切石で造った円形の門で、金剛乗寺の参拝道にあります。アーチの上には、表に胎藏界大日如来^{たいざうかいだいにちにららい}、裏に金剛界大日如来^{こんこうかいだいにちにららい}を示す梵字が彫り込んであります。伝えによると、佛様の体内に入って行き、また体内より出る門と言われています。（五嶋）

市指定

建造物

小坂の六地藏

おさかのろくじぞう

建
—
31

所在地

小坂
熊野座神社

地図

P.139 63



小坂の熊野座神社下にあります。文明十二（一四八〇）年建立で、高さは一・八メートルです。上部に六面の地藏が刻まれていて、山鹿地区でも銘記がはつきりした数少ない六地藏です。この場所は、以前は小坂旧道に沿った地点で、交通の要地でした。
(橋本)

市指定

建造物

善吉の塔

ぜんきちのとう

建
—
32

所在地

鹿北町
芋生 釘の花

地図

P.139 64



享保二（一七一七）年、農業に精を出したことで細川藩より表彰を受けた善吉の碑で、高さは約二メートルです。上から三段目の丸石の部分に「南無阿弥陀仏／享保二年正月芋生村西人／行年九〇有二年／俗名善吉」と彫られています。
(高巢)



多久太郎右衛門は、親孝行が藩に認められ、享保八（一七二三）年、細川藩より二人扶持を賜りました。そのことは、田中橋上にある「孝子太郎右衛門之碑」の碑文に記してあります。墓は母親と並んで建立されています。
（森山）

市指定

建造物

多久太郎右衛門の墓

たくだろうえもんのはか

建
—
33

所在地

鹿北町
多久本多

地図

P.138 65



泉福寺跡の一角に並ぶ石塔群で、鎌倉時代から江戸時代にかけての宝篋印塔や五輪塔からなります。泉福寺は、真言宗高野山の末寺で、永暦元（一一六〇）年に建立されたと伝えられています。鎌倉から室町時代には、相良（高橋）氏、隈部氏の保護を受けて繁栄しました。
（芹川）

市指定

建造物

泉福寺跡古碑古塔群

せんぷくじあとこひことうぐん

建
—
34

所在地

鹿本町
庄

地図

P.140 66

市指定

建造物

洞口橋

とうぐうばし

建
—
35

所在地

菊鹿町

下内田 日渡

地図

P.140 67



安永三（二七七四）年、石工仁平が建造したとされる石橋で、阿蘇の黒川の石橋のひな型となったものです。熊本県下最大の特徴は、リブアーチ式という構造で、輪石を縦方向に並べて、それらを楔石で結びつけています。

平成五年六月十八日の洪水で流失しましたが、平成六年に復元されました。

（竹下）

市指定

建造物

高橋の一字一石逆修碑

たかはしのいちじいつせきやくしゅうひ

建
—
36

所在地

鹿本町

高橋

地図

P.140 68



天文十四（一五四五）年四月、高橋大隅守頼継が建てた板碑です。高さ一〇五センチ、幅五四センチ、厚さ二四センチです。もとは、高橋字内原にあったのを、宅地造成により、現在地に移転しました。逆修とは、造立者が生前に自分で死後の供養を行うことです。

（宮崎）



稲荷社



東通門



ひょうたん池

者が成功と安全を祈願されていた祠で、現在もその伝統が守られています。ひょうたん池は、東西にあって東側は、雨樋の水を集め、防火用水としても使用されていました。

(五嶋)

八千代座本体以外の施設で、ひょうたん池、東通門、東堀、稲荷社、旧火鉢置き場棟などがあります。また、建設時の古文書や、舞台での大道具、小道具なども保存されています。

稲荷社は、公演

市指定

建造物

八千代座付属施設

やちよふぞくしせつ

建
37

所在地

山鹿
字上東

地図

P.141

69



※スパン(アーチの直径)
拱矢(アーチの基礎から
要石までの距離)

平山から和水町神尾へ向う旧道で、内野川に架けられた石橋です。長さ七・九五㍎、幅二・七四㍎、スパンは五・四九㍎、拱矢は二・九八㍎です。石工は鍋田の猿渡某とあります。年代は不明ですが、天保六(一八三五)年頃と大正三(一九一四)年の二説があります。

(福本)

市指定

建造物

湯山橋

ゆやまはし

建
38

所在地

平山
湯山

地図

P.141

70

市指定

建造物

島田の鳥居を担う天部形仏神

しまだのとりいをになう
てんぶぎようぶつしん

建 39

所在地

菊鹿町
下内田 島田

地図

P.140 71



右手に自在鉤、左手に宝珠を持ち、光背には鳥居が刻まれています。ご神体は、諸説ありますが「弁財天」であろうと思われます。この地に昔あった造り酒屋の守り神として祀られたものとも言われています。

(青木)

市指定

建造物

内野の六地藏幢及び初期の龕部

うちのろくじどうとうおよび
しよきのがんぶ

建 40

所在地

菊鹿町
上内田 内野

地図

P.138 72



山鹿市菊鹿地区で最も古い石造地藏菩薩で、(一四七三)年に建てられたものです。基礎、竿、中台は当初のもののですが、龕部、笠、宝珠は江戸時代の後期に復元されています。四角柱の竿石は、初期の六地藏の特色を示しています。

なお、当初の龕部は、現在、地区内の地藏堂内に安置されています。

(事務局)

市指定

建造物

石工仁平墓碑

いしくにへいばひ

建
—
41

所在地

菊鹿町
下内田日渡

地図

P.140 73



仁平は肥後石橋の開祖といわれた石工の棟梁で、現在の菊鹿町下内田を拠点としていました。肥前に赴き石橋の知識と技術を習得し、安永三（一七七四）年に洞口橋、天明二（一七八二）年に阿蘇スカル橋を架橋しました。その後、肥後北部を中心に石橋の架橋を指導したほか、神社の鳥居、宝篋印塔、仁王像などの石造物を製作し、活躍しました。

（竹下）

市指定

建造物

弁天橋

べんてんばし

建
—
42

所在地

鹿北町
岩野 弁天

地図

P.139 74



別名園木橋とも呼ばれ、旧国道三号線造営時の明治十四（一八八一）年に架けられた眼鏡橋です。他の旧国道三号線にある石橋と同様、橋本勘五郎率いる種山石工たちによって架けられました。橋長一〇・五メートル、幅員五メートル、拱矢二・八メートル。（古賀）



長さ四・二呎、幅二・四呎で、明治初年に建造されました。往時は山鹿街道の橋としてたくさんの人々が往来したと思われるますが、現在は旧碎石工場内にあるため、立入禁止です。楔石が少しずれて
いるようです。

(古賀)

市指定

建造物

勝負瀬橋

しょうぶせはし

建
—
43

所在地

鹿北町
岩野 勝負瀬

地図

P.139 75



旧山鹿街道(兼松往還ともいう)の田代谷川に架設されています。水天宮二号橋と共に、鹿北町の眼鏡橋の中では最も素朴な石橋です。橋長三・五呎、幅員二・四呎、明治初めごろに造られたようで、石工は不明です。

(古賀)

市指定

建造物

水天宮一号橋

すいてんぐういちこうきょう

建
—
44

所在地

鹿北町
岩野 鶏頭

地図

P.139 76



市指定

建造物

水天宮二号橋

すいてんくうにがうきやう

建
—
45

所在地

鹿北町
岩野 鶏頭

地図

P.139 77

一号橋から約一〇^{メートル}上手の谷に架けられています。一号橋と同時に架けられたと思われる。両橋ともに壁石はなく、輪石と標石と橋の両裾に多少の石が置かれ、土をかぶせた状態です。長さ二・五^{メートル}、幅は二・四^{メートル}、石工は不明です。

(古賀)



市指定

建造物

上麻生橋

かみあそうばし

建
—
46

所在地

鹿北町
椎持 麻生

地図

P.139 78

麻生集落から約一〇〇^{メートル}上流の麻生川に架つています。長さ三・五^{メートル}、幅一・四^{メートル}の非常に素朴な眼鏡橋です。明治中期に吉永家の先祖が建設したと伝えられています。

岳間の人々は麻生峠を越え、この橋を渡り、更に上長峠を越えて山鹿を目指しました。菊鹿―鹿北の県道が開設されるまでは、重要な交通路でした。

(古賀)



明治十四（一八八二）年の国道三号の建設時に、岩野川の支流の川原谷川に架設された眼鏡橋です。石工は橋本勘五郎を棟梁とする旧東陽村種山石工達です。長さ八・五^{メートル}、幅五・〇^{メートル}で、まだ石組もしっかりしており、一見に値する眼鏡橋といえます。（古賀）

市指定

建造物

丸山橋

まるやまはし

建
—
47

所在地

鹿北町
芋生川原谷

地図

P.139 79



明治四十二（一九〇九）年に、岩野川に架けられた石橋です。橋長七・六^{メートル}、幅員四・七^{メートル}でしたが、二回にわたって幅員九・二^{メートル}まで拡張されていました。平成七年の県道改修の時、現在の廻り濶に移築されました。今回の移築により全く原形はとどめていません。（古賀）

市指定

建造物

板曲橋

いたまがりはし

建
—
48

所在地

鹿北町
四丁 廻瀬

地図

P.139 80



市指定

建造物

平山橋の輪石

ひらやまばしのわいし

建
—
49

所在地

平山
前川内
地図

P.139 (81)

文久元年（一八六一）に造られたとされるアーチ式石橋（眼鏡橋）です。大正時代に拡幅され、県道として永く利用されてきました。

平成二十四年（二〇一二）に県道の拡幅工事により、解体されましたが、地元住民や石橋保存団体からの強い要望があり、平成二十六年（二〇一四）に輪石部分を移転復元したものです。

（事務局）



市指定

建造物

大坪橋

おおつぼし

建
—
50

所在地

城
仁田窪
地図

P.141 (82)

慶応元年（一八六五）から明治三年（一八七〇）ごろに造られたとされるアーチ式石橋（眼鏡橋）です。元は吉田川に架橋されていた水路橋で、県内の水路橋としては国宝の通潤橋（上益城郡山都町）に次ぐ規模とされます。

「洪水の原因となる」として撤去されましたが、文化財保護団体などの尽力によって、昭和五十九年（一九八四）山鹿市立博物館南側へ移築復元されました。

（事務局）